

(コーディネーター)

続きまして、事業番号 35、卒業記念品事業について、ご説明よろしく申し上げます。

(説明者)

それでは、事業名、卒業記念品事業につきまして、担当課の教育相談課よりご説明申し上げます。

本事業は、枚方市教育委員会として枚方市立小中学校の課程を終える児童・生徒に対して卒業を祝福するとともに、母校やふるさとに対する愛情を持ち続けて欲しいという気持ちを形にすることを目的に現在実施しております。

また、卒業記念品の贈呈の方法につきましては、毎年卒業式におきまして、本市教育委員または事務局職員より卒業児童・生徒の代表に対して手渡しで行っております。卒業記念品につきましては、教育委員会事務局で選定しており、児童・生徒一人ひとりが卒業後も折に触れて学校での生活を良き思い出とともに振り返ることができ、かつ実用的に利用できる物を毎年 1 人当たり、年度によって変わりますが、450 円の予算の範囲内で選定しております。ここ数年間は若干仕様は異なりますが、小中学校ともアルミ枠のフォトフレームを設定しております。本日は現物を 1 部しか用意できてないんですけど、こういう形で実際子どもたちの手元の方に配らせていただいております。中身につきましては、アルミ製で、若干去年と、今年と、一昨年と、比較年度なんですけども、大きさは若干違うんですけども、キャビネサイズのもの、いい方が悪いんですが、見ていただいたとおり、簡素な形ではありますが、簡易スタンドではありますけど、こういうスタンドも付いております。国産の写真機材のメーカー品でございます、別途資料にもございますけど、8,000 台近くを一括購入しておりますので、予算内で購入できております。資料の 74 ページ、75 ページに資料添付しておりますので、そちらご覧いただきたいと思っております。

なお、大阪府内各市の卒業記念品の贈呈状況につきまして、ご説明しますので 75 ページをご覧ください。大阪市と堺市を除く 30 市に対して聞き取りで調査を行いました。小学校、中学校とも卒業時に贈呈している市町村は 70% ですが、本市と人口規模が同等以上の市に関しましては、すべて事業化されておりました。記念品目につきましては、筆記具などの文具類、卒業証書のケース類、アルバム類は小・中学校とも選定されておりますけれども、小学校での英語関係の辞書、それと中学校では印鑑がそれぞれ特徴的な品目として選定されております。各市の卒業生の一人当たりの予算額は、小学校で約 520 円、中学校で約 479 円と小学校で辞書類が選定されておりますので、若干小学校の方が高くなっております。また、各市の予算は一人当たり幅がございまして、100 円から 1,000 円、その範囲内で選定されております。そこを見ますと、本市の予算額はほぼ平均的な額であると考えております。

最後に今後の事業の方向性でございますが、事業自体は今後も市民のご理解を得なが

ら、予算化して参りたいと考えております。また、本年度から枚方市教育委員会では、各中学校区で目指す子ども像を共有化し、義務教育9年間を見据えた指導を行うという、小・中連携事業をスタートさせております。卒業記念品の選定につきましても、この9年間を終了した時点での記念となる品として、中学校卒業時に統合することを含めて、事業の進捗見ながらより効果的に執行できるよう検討してまいりたいと考えております。

以上簡単ではございますが、担当課からの事業説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

(コーディネーター)

はい。では議論に移る前に私からお伺いしたいのですが、枚方市小・中学校を卒業した子は2つ持ってるということですか。

(説明者)

そうです。

(コーディネーター)

目的が母校やふるさとに対して愛情を持ち続けて欲しいということなんですが、それを表現するのが、贈呈品ありきということですか。

(説明者)

いや、もちろん式典の中におきまして、ここはいろいろ学校で工夫されて、表現する式典とされると思うんですけど、教育委員会としてもそういう工夫をするのに、卒業記念品を贈呈しているということで、もちろんそこに対しましては補足的な意図で、こういう形で実施しております。

(コーディネーター)

それでは議論の方に移りたいと思います。質問のある方いらっしゃいますか。

(仕分け人)

記念品の贈呈については、今、ご質問があったんですけども、私は必ずしも否定するわけではないんですが、この記念品の贈呈にかかる人件費、非常にこれは高い。0.2ということは、一見非常に少ないように見えるんですけども、人件費20%というのは稼働日数は年間243日でしたかね、1年間の。その20%、48日ぐらいのために、日にちがかかっているんですよ。果たして、そんなに時間をかけるものかなっていう。記念品を選ぶだけにね。そういう疑問があるんですけども、それはどうしてそんな日数がかか

るんでしょうか。

(説明者)

非常にどれだけのボリュームをもってこの事業に職員関わってるかというところですが、基本的には人数把握、契約に関する事項、それと実際の物の管理だとかが中心になってくるんですけども、確かにこの0.2という数でございますが、ちょっとこのあたりは色々で見極める上で、他の仕事も含めて、職員の仕事量というのを測っておりますので、確かに167万2,000円、そのものがかかっているかと言われますと、若干下回っていると判断していただくことになるかと思えます。申し訳ございません。

(仕分け人)

ちょっと別のことになるんですが、卒業アルバムって、今どういう形になってるんですか。私自身の子どもはとっくに卒業してるものですから。これは当然、小学校・中学校卒業アルバムあるでしょう。それはお金を親御さんが出して、ですよ。子どもたちにとっては、あれがかけがえのない物ですよ。記念品ってそれは一番の記念品は多分卒業アルバム。それを上回るような記念品ってたぶんないんですよ。なんでこれ付け足したいに必要なのかと、そこが全くわからないですよ。あれ、本当にかげがえのないものですよ。

(説明者)

非常にそのとおりだと考えますが、教育委員会からお渡ししてるものにつきましては、やっぱり教育委員会として子どもたち、例えば小学校だったら6年間頑張ってきたなという思いですね。これを表す物として、開始年度は昭和43年度以前というふうに書かせていただいているんですが、かなり以前からこの事業というのは、各市において自治体の事業だと言うふうに考えております。

教育委員会としましても、言葉に出すのはもちろんですが、やっぱりご父兄、保護者の方に対しましても祝辞を申し上げると言う意味で、実施してきております。品物の選定につきましては、今おっしゃっていただいたように、確かに、これを上回るような選定というのは困難であるかというふうに思うところもございますけれども、違った意味で、一つ一つの思い出を、例えばこのフォトフレームであれば、子どもたちが卒業アルバムにないようなこういうシーンをこの中に納めて、ことあるごとにいい思い出を思い出して、枚方に対する愛情を持っていただきたい、そういうことがこの事業を実施してきたものだというふうに考えております。

(仕分け人)

おっしゃってることは今、納得できるところまではいかないんですけど、そのフォト

フレームに、例えば、ぴったり入るような集合写真みんなで最後に撮りましたとか、それを入れてくださいとか、あるいは皆で何か書いた絵とか、何かそういう、この小学校で6年間過ごした、この中学校で3年間過ごしたっていうことの思い出を、そこに入れられるっていうセットになるようなことをやっておられるのであればまだ理解できるんですね。

そうじゃなくて、ただのフレームのアルミのフレームをもらって、それが1個450円とかでもらって、卒業アルバムでも写真ありますから、その中でちょっと理解できなかった。他の市でも色々やっていて、アルミフォトフレームにする前に何されてたのかちょっとわからないですけど、私なんかは中学校で、印鑑もらった記憶があって、何で個人の証明に使う物を人からもらうんだって、すごく気味が悪かった記憶があるんですね。ああいった感じで、ちょっと記念品というのをどう考えるかって、それが本当に必要なかって、ちょっと目的に照らしても非常に疑問があるなと思います。

(説明者)

ありがとうございます。確かにそういった課題というのはあるというふうに思っております。先ほど小・中連携事業というふうに申し上げました。例えば、この校区、中学校校区で子どもたちをどういうふうに育てていくのか、その結果、やっぱり今おっしゃっていただいたような、写真だったら集合写真だとか、そういうことをその中に入れるということを、今まで欠けておりましたので、今後はそういう取り組みも含めまして、事業の進捗を図っていく必要があるんですけども、いただきましたようなご意見を取り入れて続けていきたいと考えています。

(仕分け人)

それは今最初にコーディネーターが言った、物ありきの考えかたですね。結局、フォトフレームにするからそれに合わせて何をするのかって話になっちゃうわけですね。そこはちょっとお考えいただいたほうがいいかと。

(説明者)

ありがとうございます。

(仕分け人)

このフレームに枚方のマークは入ってないんですか。

(説明者)

入ってません。

(仕分け人)

私ちょうど子どもが小学校、中学校にいるんですけれども。正直子どもの側からして、フォトフレームをいただいて、そんなに印象深いというふうに思うものでもなく、小学校の卒業式、前回行ったときにも、市からフォトフレームをいただきました。PTAからいただきました。地域の方からいただきました。沢山いただけるんですね。だから、物で、ありがたいものなんですけど、いただく側からすれば、正直すごく印象が薄いと思います。何かプレゼントって本当にありがたい気持ち、そういうふうになって思っていたのは嬉しいことなんですけど、違う形っていうのがあるんじゃないかと思うんですけど。

(説明者)

確かに物ありきってところが、過去の自治体、昭和43年までは遡れるんですけれども、それ以前もおそらく事業としてあったんだろうと考えております。確かに慣習として続いてきた側面というのは、やってく側からしても残念ながら否定できないというふうな形では感じております。

しかしながら、例えば、卒業式におきまして、その贈呈した経験はあるんですけれども、そのときにでも何か言葉を添えて、もっと活用していただけるような、子どもたちが持って帰って、家の方と自分の思い出の写真であるとか、そういう入れるようなことを想定しながら、今後もっと、これも物のありきになってしまうんですけれども、選択も含めまして、やっぱり長期的な観点というのも取り入れて行かなきゃいかんと感じております。

(仕分け人)

75ページの資料なんですけど、大阪市と堺市は政令市なんで除かれたんですけど、大阪市と堺市はそんなの贈ってられるというのはわからないんですか。

(説明者)

申し訳ございません。そこまで調査しておりません。

(仕分け人)

あと、事業なしが、資料の一番下に7市とあるんですけど、これはもうちょっと中身を教えていただけると。あったんだけどなくなったとか、元々ずっとなかったとか。

(説明者)

7市のうち、何市かは、いわゆる財政的な理由というふうに聞いてはいますが、具体的に、例えば何がどう言う理由で、もともとなかったのか、そういうところまで、申し訳

ございません。確認しておりません。

(仕分け人)

枚方市の記念品の中は、卒業証書の筒というのはいないんですけど、これは渡してないんですか。

(説明者)

これは先ほどお話がありましたけど、学校の方で、学校の事業として準備して渡しているというのがほとんどだと聞いております。

(仕分け人)

渡しているけれども、記念品扱いではなくて、学校から出してもらっているということですね。印象に薄い記念品に 500 万円かけるというのは、やはりちょっと市民感覚ではなかなか納得できないんじゃないかなと思うんですけども。今の予定では、義務教育 9 年間の後はやはり渡していこうという話と、多分廃止しようという話もあると思うんですけど、それって今、議論どうなってるんですか。

(説明者)

教育委員会としましては、祝辞を表す事業として、継続していきたいということは考えております。廃止につきましては、確かにこれまでこういう場もございませんし、色んな形でのご意見をいただく機会というのもなくあったということもありますので、そういう意味で、教育委員会の意思としては継続して、より効果的な執行をと考えておりますが、ここでいただく意見というのは、大きく参考にさせていただきたいと考えております。

(仕分け人)

物で祝意を表すのも一つの方法だとは思いますが、それ以外でもお祝いの気持ちを伝えるというのは、お金をかけないものもいくらでもあると思うんですよ。手紙を書いたりとか、言葉であったりとか。500 万円、結構な金額ですよ。もう少し使い方を考えていただきたいなとは考えますね。

(説明者)

ありがとうございます。

(仕分け人)

ちょっと時間があるようなので、最初の話をもう1回聞きたいんですが。卒業アルバムは、要らないっていう、本人なり親御さんはいますか。

(説明者)
おります。

(仕分け人)
その理由はどういう理由ですか。

(説明者)
理由までは確実に調査をしてるわけではないですが、例えば経済的な理由であるとか伺っております。

(仕分け人)
これは一冊今、小学校、中学校それぞれ作るから、金額違いますよね。

(説明者)
各学校ごとに。

(仕分け人)
各学校ごとに作るから、そんなに安くはできない。大体いくらだったというか、そういう情報取られていますか。

(説明者)
大体私の、昨年まで中学校で勤めておりましたので、参考になるかと思うんですけど、入札もしまして、5,200円くらいだったかと思います。学年度によっては違いますので、当時では4,800円になるかなと、大体そんな感じです。

(仕分け人)
それを個人負担が、ずっとそれは昔からそういうものだったので、そのままいってるんですよね。そういう物はそういう物として、また、こういうプラスアルファのことは、今度は全部税金でやってるんですよね。そここの交通整理っていうのは、私にはよくわかりません。昔からそうだから、これは実費で5,000円、6,000円取るよ。場合によっては経済的理由で買えないという人もいるかもしれない。それ以外の理由だったらそれはそれで理由あるんでしょうけど、学校なんか思い出したくもないみたいだね、ことあるのかもわからないけど、ほとんどそういった、という状況ですよ。それも含

めて同じお金をかけられるのであれば、優先順位を考えるべきだというふうに思いますけど。

(コーディネーター)

このフォトフレームをもらってすごい嬉しかったですよっていう反応、手紙とか、そういったのあるんですか。

(説明者)

卒業式でございますので、別格その後子どもたちに確認する方法は難しいんですが。

(コーディネーター)

教育相談課に手紙が届いたり。

(説明者)

手紙はございません。

(コーディネーター)

結局、わからないんですね。

(説明者)

そうですね。確かにそこも一つ課題であると考えます。やり続けてきている事業について、確認する方法ですとか、それが今後必要かなと考えております。

(コーディネーター)

その他にございますでしょうか。よろしいですか。

まあ、整理をすると、果たしてこの、物でいいのかっていうのが一つなんですよ。あとは卒業記念品じゃないんですけど、私これ、成人式の記念品なんですよ。物ありきっていうこと議論している上で、やっぱり物だってことになると、ごめんなさい私的な話で。学生だったので、こんなの要るかいと思ったんですけども、やっぱりそのとき役場の方が、いやいや、仕事に就いたら色々な仕事があるけど、スケジュール管理しなれないといけないことがあるかもしれないからということで選んだと。もう10年以上たってボロボロになっても使っているんですけど。そういう物っているんな思いにくっ付いてると、やっぱり今でも覚えてるし、これ使っているの、すごく意義があると思うんですよ。そういったことで、すごく真摯に受け答えしていただきまして、いい議論ができたと思うんですが、それはそれとしてやっぱり一度ゼロに戻さないというのがあるかもしれないので、ということで、評価シートの記入はよろしいでしょうか。

ちなみに、皆様も何かしら持ってらっしゃるんですか。いつからフォトフレームになったかわからないんですけどね。

(仕分け人)

私は残念ながら枚方市民ではないので、フォトフレームとかではなかったんですけども、申し訳ないんですがあまり記憶にないんで。

(コーディネーター)

よろしいですか。事業番号 35、卒業記念品事業について、評価を行いたいと思います。1 番不要(5 人)、2 番 民間(0 人)、2 番 国・府・広域(0 人)、3 番枚方市・要改善(1 人)、4 番枚方市・現行通(0 人)

それでは、評価についてご意見いただきたいと思います。じゃあ枚方市・要改善の古谷さんから、お願いします。

(仕分け人)

確かに仕分けからいきますと、過去にやってたからそれが続くってことはあまり前提にしない、考えない。ということでありますけども、やはり長年続いてきている一つの市の行事でもあるわけですけども、ただ、子どもの印象に残るような何か記念というものを考えるべきである。記念品であるとか、何言えばいいかわからないですけど。そういうことを考えると、やはり子どもたちがよかった思い出となるような、何かを工夫して欲しい、そういう意味で要改善というふうに入れました。

(仕分け人)

役所ってというのは、昔からのことはそのままにしながら、新しい物、次から次ってことをやりがちなんですけど。やっぱり卒業生、子どもたちの今置かれてる状況とか一人ひとり子どもたちの顔を思い浮かべながらですよ、やっぱりもう一回取り組みしていただきたいと思うんです。これは一つの、これ自体は本当に一生懸命やることあるだろうなという分も含めて、私は今先ほど申し上げたようなことも、やっぱりなかなか難しいですよ。どこで子どもたちが、今アルバム買えなかった子どもたちがねじくってしまうこともあるわけですよ。それも含めて、やっぱり血の通った教育行政を進めてください。

(コーディネーター)

他にご意見のある方いらっしゃいませんか。

(仕分け人)

物ありきではなくて、500万円はちょっと使いすぎかなという印象がありますので、お金を使わない、手紙であるとか言葉であるとか、そちらにもお金を使わない方向で知恵をしばって行って、それで最後、お祝いの気持ちを表していただければと思います。

(コーディネーター)

色んな意見出ましたけれども、少しでも枚方子どもたちの事業に役立てればと思います。

事業番号 35、卒業記念品事業については、班の結論は不要という結論にさせていただきます。ありがとうございました。